

## 5 レディ・クレア

- ユリの花が咲きそろい  
空高く雲がたなびく頃  
ロード・ロナルドは ユリのように白い雌鹿を  
従姉妹のレディ・クレアに贈りました
- 一度も<sup>いさか</sup>諍いをしたことのない 5  
長く<sup>いいなずけ</sup>許婚の二人でした  
明日の朝 二人は結婚いたします  
神よ その日に祝福あれ
- 「生まれが良いからではないわ  
広い領地持ちだからでもないわ 10  
そのままのわたしを愛してくれる  
それが彼のよいところ」
- 乳母のアリスが入ってきました  
「さきほど出て行かれたのはどなたです」  
「従兄弟のロナルド様よ 15  
明日はわたしたちの結婚式」
- 「ああ 神様」と 乳母のアリスは言いました  
「正しきことに祝福を  
ロナルド様こそ この領地の跡継ぎとなられるお方  
あなた様はレディ・クレアではないのだから」 20
- 「乳母よ 気でも狂ったの  
なんてひどいことを」  
「神様に誓って  
それは真実 あなた様はわたしの娘
- 「伯爵様のお嬢様はわたしの胸で亡くなりました 25  
嘘偽りではありません  
実の娘として埋葬し  
わたしの娘を差し出しました」

「ひどいわ ひどいわ  
お母さん もしもそれが真実ならば 30  
世界一のあのひとを  
長く騙したことになるわ」

「いいえ 娘よ  
秘密は一生お守りなさい  
あなたがたが結婚すれば 35  
この領地はロナルド様のものなのだから」

「たとえ卑しい生まれでも  
わたしははっきり伝えます 嘘はいや  
金のブローチをはずしてちょうだい  
ダイヤのネックレスをはずしてちょうだい」 40

「いいえ 娘よ  
秘密はずっとお守りなさい」  
「そんなことはできないわ  
打ち明けて あのひとの誠実さを知りたいわ」

「誠実さですって 45  
ロナルド様は権利にしがみつくだけ」  
「たとえわたしが今夜息絶えても  
ロナルド様が領地を継げばいいだけのこと」

「お母さんにくちづけしておくれ  
ああ わたしの娘 おまえには悪いことをしてしまった」 50  
「ああ お母さん お母さん お母さん  
これは世にも不思議なこと

「あなたにくちづけいたしましょう  
お母さん もしもあなたがわたしの母なら  
わたしの頭に手を置いて 55  
家を出る前に わたしを祝福してください」

クレアは粗末な服を身にまとい  
もはや レディではありません  
クレアは谷を通り 荒野を歩いてゆきました  
髪には一輪のバラの花 60

ロナルドがくれたユリのように白い雌鹿も

寝床から飛び起きて  
クレアの手<sup>こらへ</sup>に頭を垂れて  
彼女とともに行きました

ロード・ロナルドが屋敷の塔から降りてきました 65  
「おお レディ・クレア どうしたのです  
村娘のような身なりをして  
この世の花とうたわれているものを」

「村娘のように見えたとしたら  
そのとおりなのです 70  
わたしは卑しい生まれです  
レディ・クレアではありません」

「僕をからかわないでおくれ  
身も心もあなたに捧げているのだから  
僕をからかわないでおくれ 75  
その謎かけは難しい」

クレアは毅然と立っていました  
弱気な気配はありません  
ロナルドの目をまっすぐ見つめて  
乳母の話を伝えました 80

愉快そうにロナルドは笑って  
振り向いて クレアにくちづけしました  
「あなたが相続人でないとしても  
次の相続人はこの僕だ

「あなたではなく 75  
僕が正当な相続人だとしても  
明日 二人が結婚したら  
あなたはやはりレディ・クレア」

(中島久代訳)